

# 研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&amp;FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



## 研修講座 B-3 人権・同和教育3回連続講座①

「人権・同和教育を進めていく上で大事にしたいいくつかの視点」

【講師】伊賀市教育委員会学校教育課 指導主事 中 仁美さん

5月19日(火)に、人権・同和教育3回連続講座①を行いました。

はじめに受講者一人一人が自己紹介をしました。この講座を通して「自分の人権意識のアンテナを高くしたい」「他の先生方の実践も知りたい」「子どもたちが安心して過ごせる学級づくりがしたい」など、学びたいことを出し合いました。



続いて中指指導主事より、ご自身の実践も踏まえたご講義をいただきました。たくさんのお話の中から、ここでは3つご紹介します。1つ目は、「視点児(生)をどのように決めるか」です。中指指導主事は「自分にとって『しんどい子』



が視点児(生)ではない」と話されました。その上で表情・服装など見えるところは勿論のこと「見ようとしなければ見えないところ」を見続け、「子どもの背景を掴まないと視点児(生)は決められない」とお話しいただきました。2つ目は「ねらいをもった家庭訪問」

です。「子どもや保護者の気持ちや願いを聞く・先生の思いを伝える」こと等を目的とする家庭訪問は、保護者の方の「体温を感じる」ものであり、それを感じられるのは担任であり、その日々の繰り返し信頼関係を築くことにつながると教えていただきました。最後に学力についてです。子どもたちが自分で進路を選択できる、道を切り拓くことができる学力を身につけることは非常に大切です。子どもたちの「わかった」を引き出す授業改善と共に、共感的な態度や想像力、自分も相手も大事にする態度、そして正しい知識、これらを授業や教育活動全般にわたり養う大切さを話されました。

ご参加いただいた先生方の今後の実践に活かしていただくとともに、各校・園でも還流いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### アンケートより【一部抜粋】

・子どもの実態をつかみ、そこから学習をすすめていくことの大切さを知りました。私は今まで子どもの背景を知ろうとしなかったり、自己満足で保護者や子どもとの話し合いをすすめてきたりしたことが何度かありました。だけどそれは誰に何も届いていなかったんだと反省しました。子どもが『言いたくないな』と思っていること、だけど『本当は知ってほしいこと』を自分は知っているか」と考えるきっかけになりました。「保護者の温度を感じられるのは担任だけ」という言葉を聞いて、もっと真剣に取り組んでいきたいと思いました。【小】

・まだクラスでの視点生を決めかねていたので、決めるための考え方やポイントを教えていただき、ありがたかったです。家庭訪問や生徒がクラスの中などで、自分の悩みや生い立ちを語ることに對して、私は難しさも感じつつ、少し抵抗があったことにも気づきました。「家庭訪問は行ったほうが良い」と言うけど、「迷惑だと思われていないか」とか、考えてしまっていました。でも今日のお話を聞いて、目的をもった上で保護者の方や生徒に向き合い、意思を尊重していけば大丈夫かもしれないと思えました。ありがとうございました。【中】